

NIPPON DESIGN COMPETITION

"居心地 (IGOKOCHI)"

日本の言葉を西洋の言葉に置き換える時にいつも適切な単語が見つからず中途半端な気持ちになる。NIPPON独自のものを伝えようとするからであろう。

居心地とは、ある空間において安らぎを求めるヒトの心の所在、ではないだろうか。そしてその心の所在とは個々の心理と密接に関係していて、その心理は、道徳と倫理に基づく人間の良心に根付いた潜在意識ではないかと思う。

ここに私の考える20年、30年、そして永遠に日本が誇る日本の居心地のある空間を表現してみた。ヒトは、自然界からの恵みである光、風、季節感のその美と同時に恐怖を知り、そこに安心感を求めて居場所を作ってきた。日本人の自然に対する敬意は、美意識だけではすまされず、天災に見舞われても、またその上に平和をもたらすべく使命感を呼び起こす。

永遠に"居心地(IGOKOCHI)"の良い空間には、失ってはいけない原則があるように思う。

ここに新しい屏風を提案したい。屏風は空間の"あちら"と"こちら"を分ける。障子、襖、組子格子の3種類の引込み式の建具が戸袋に内蔵されている。その空間は京都の山地でもパリの館でもニューヨークのロフトでもその場所は選ばない。居心地の良い空間の原則が守られている中で、その表層は光琳の燕子花でもモネの睡蓮でも、ポップアートでも個々の好みで良いのではないだろうか。

灯籠 (洋) 太陽 趣 風 かつ No. 1504

緒方光琳 - 燕子花図屏風 1701~1704-



Claude Monet - Nymphéas 1916-

